

苦い麦茶

松 永 悠 伽

今日は夏休み初日。

学校に行かなくて良い朝はゆとりがある。だが、机に向かっても、受験勉強のエンジンがかからず、私は「終わり」について考えている。断りを入れるが、ここで言う終わりは受験勉強の終わりのことではない。

私はここ最近「有終の美」とは何かについて考えている。こんなにも「終わり」について考えるのは理由がある。実は今、一つの物事の終わりに直面している。十月に生徒会長の任期を終えるのである。どんなに美しい花も、いつかは散る。物事ひとつひとつに終わりがある。私もきちんと終わらせなければ…なんてかっこいいことを考えながら、麦茶を一口ゴクンと飲む。

「げっ、ぬるい。」

私の生徒会活動も、このぬるい麦茶のように最後を迎えるのか。

昨年の生徒会選挙の立ち会い演説会のことを思い返してみた。顔では笑顔をつくっても、足はガクガク震えながらの演説が懐かしい。私の苦悩は、この選挙から始まったと言って良いだろう。意気揚々としていた私も、



会長職の厳しさを知り今日に至る。

うまくいかないこともあった。大人の社会を垣間見たような先輩たちの洗礼を受けたと思えば、思いがけず下級生から応援のメッセージをもらって嬉しかったこともあった。

ここまでを省みて、自分が生徒会長となって成し得たことはあっただろうか、そう自問すると、答えに窮する自分がいた。

今思うと、うまくいかなかった原因の一つは、各企画を担当ごとに分けてしまったことにある。確かに、その企画についての責任の所在は明らかにするが、全体で助け合おうという気持ちが生まれにくい状況をつくってしまった。言うなれば、「みんな個人プレー」となってしまっていた。これでは組織の意味がない。

さらに、一・二年生の時は、生徒会を外から見ているが、内側に入ると、今まで見えていたことが見えなくなったことも原因だ。みんなが私にやって欲しいことと、私がやりたいことが、一致していなかったのだと思う。やればやるほど、みんなが何を思っているのかわからなくなっていた。みんながやって欲しいことが見えなくなっていた。

落ち込む話ばかりでは気分が滅入ってしまうので、良かったと思うことも記しておこうと思う。私が会長になって成長できたと思うことは「相手の心に寄り添う」とはどうすることか、わかってきたことだ。それは、様々な企画を検討する企画会を重ねて得たものである。

生徒会はややもすると、会社の社長と社員との関係のように、上下関係のようなものが生まれ、一歩間違えると自分のことを上の立場だと思ってしまう。企画会議中、そこにいる誰しもが、良かれと思って、活発に意見したりアドバイスしたりしている。それが相手にとっては高圧的に感じる場面が多々あったように思う。

また、自分の思ったことが相手に伝わらないとイライラし、決めたことをやってくれない人がいると、言葉や態度で攻撃してしまう場面もあった。その場の雰囲気は決まって悪くなるものだ。

「はるか、上の立場に立った時、大切なことがある。誰かに動いて欲しい時は、十の要求をするのではなく、

七くらいにして、自分が三手助けし、十に返してもらおう。そう考えなさい。」

祖父の言葉が頭をよぎる。

決められたことはやらなければならない。これは大前提である。みんなわかっている。できないのは何かしら原因があると私は考える。もしかしたら、体調が悪かったのかもしれない。昨夜何かのタイミングで親と口論になってそのことで気もそぞろになってしまったのかもしれない。宿題がたまっていたのかもしれない。起きてしまった出来事を変えることはできない。

そんな時、相手の心情を踏まえて「次はこうしよう」という、祖父の言う二の手助けをしている自分がいた。過去は変えられないから、変えられる未来の部分を改善していこう、という提案だ。そうすると、相手も素直に受け入れてくれる。場の雰囲気も和む。リーダーがメンバーに対し、心に寄り添うことは非常に大事だと学ぶことができた。

生徒会長の任期終盤を目前にして思うことは、私にはアドバイスしてくれる大人が必要であり、仲間が必要だった、ということである。寄り添ってくれる人を得られなかったとしたら、それは自分の責任である。

リーダーとは何だろうか。このように文に起こすことは、心をえぐる作業でもあるが、自分が思っていることを整理することもできた。今一度、仲間の心に寄り添って、振り返ってみよう。そして私が出した結論。それは、みんなは、私の提案したその企画に乗り気でなかったけれど、意見を言えなかったのではないか、ということである。

自分が蒔いた種は自分で刈り取ろう。それがリーダーとしての最後の役割ではないか。苦い経験ではあるが、高校生になったら同じ失敗はしないようにしよう。

ここまで考えたところで、コップに残っている麦茶を飲んだ。その味は濃くて、この経験と同じく苦く感じられた。これで良いのだろうか。良かったと思おう。冷蔵庫からもう一杯持ってきて、気持ちをリセットしよう。



キーンと冷えた二杯目の麦茶。ゴクリと一口。その一口で私の心は少し晴れたが、やはり苦い。今日はまだ夏休み初日である。